

◆ 平成 23 年度（前期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）計画一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科	高等教育推進部 門委員及び、カリ キュラム見直し ワーキング	教員向けには 6 月中予定	未定 (メール配信に よる)	<b>実施目的</b> カリキュラムの内容検討 <b>実施内容</b> 年度計画で取り上げてきたカリキュラムの見直しの一環として、フレッシュマンセミナーの在り方や試行中の CAP 制の後追い調査などを行う。また、科目ごとの授業評価ではなく、学生の意見を聴取する目的で、学生へのアンケートを企画する。
人間文化学部 健康科学科	菅原芳明他, 学科 FD 委員: 中瀬古 哲, 学科長: 栢下 淳	4 月 1 日～4 月 30 日 ・アンケート応募期間: 4 月 1 日～4 月 30 日: 現場の“生” の声の集約 ・「健康科学科 Sustainable Development に向けた Road Map」の作成: 5 月 10 日  5/30 日～6/7 日 ・「栄養教諭実習公開模擬授 業への参加と学科 FD」  6 月 28 日 (火) 11:00～12:00 ・「コアカリキュラムについ て～」	特に定めない  1243 講義室他  1215 会議室	<b>実施目的</b> 健康科学科 Sustainable Development に向けた Road Map の作成 <b>実施内容</b> H22 年 3 月に開催された「広島プレミア科目」参加に想を得た学科 FD である。講師の講演の中で特に印象深かったものは、1)『それぞれの企業は、「現場の“生”の声」を大切にしている』ということ、さらには、2)『「現場の“生”の声」の集約を通して、「それぞれの企業の Sustainable Development に繋げている』』との 2 点であった。なお、「現場の“生”の声」の集約の代表例として、「HONDA Way (ワイガヤ!!)」や「TOYOTA Way (KAIZEN)」についての言及があった。今回、平成 23 年度第 1 回学科 FD として、この手法（「ワイガヤ!!」;「KAIZEN」）を取り上げると共に、昨年度に策定した学科「将来構想案—学科の設置理念と将来構想—」をバックグラウンドとし、併せて、今回集約した「現場の“生”の声」に基づきながら、健康科学科 Sustainable Development に向けた Road Map の作成を試みる。  <b>実施目的</b> 学科における「教育改善」を目的とし、学科教員に対し平成 23 年度栄養教諭実習公開模擬授業（5/30 日～6/7 日）への参加（自由参加）を呼びかけると共に、当学科の実習生（4 年生）12 名の公開模擬授業に「児童・生徒」の立場で参加するもの（学科 FD）。 <b>実施内容</b> 児童・生徒の立場ならびに児童・生徒目線で実習生による模擬授業の“授業評価”を行うと共に、教育実習生のそれぞれの授業に対し、「教育改善」の視点からアドバイスをを行なう。  <b>実施目的</b> 学科における「教育改善」を目的とし、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムの提言」を資料とした学科教員間の勉強会。 <b>実施内容</b> 講演者: 杉山 寿美 (学科将来構想委員) 演題: 「コアカリキュラムについて～」を開催。学科将来構想委員会と学科高等教育部門委員会による共催。
経営情報学部	西脇廣治	学生の勉学状況などに応じて随時	学外を含め、研究室、教室、会議室等	<b>実施目的</b> 広島県立大学経営学部過年度学生への対策を目的とする。そのためには、経営情報学部教員・教学課担当者との情報交換、協力関係の構築が重要になる。したがって、これらの者が参加。 <b>実施内容</b> 広島県立大学過年度学生の対策は、経営情報学部の重要課題の一つである。学生の状況により、学部教員、及び卒論指導教員、副指導教員、教務担当の教員、及び教学課担当での状況確認、対策協議の会合を持つ。これらの協力指導体制によって、広島県立大学過年度学生の、少しでも早い（できれば、今年度）卒業を目指し、種々の指導、活動をおこなう。
経営情報学部 経営学科	平野 実	基本的に、各ゼミ単位で勉強会を開催するが、学習の進展状況等に即して、各ゼミ指導教員を中心に、随時会合を持つ予定。	研究室、演習室、学生の自宅学習等	<b>実施目的</b> 日経テストは、経営・経済の仕組みや流れを深く理解して、新しいビジネスを生み出す能力である経営・経済知力を競うものである。経営・経済知力は、これからのビジネスリーダーを目指す人材に求められる必須の能力で、近年、企業、大学等の参加が増えてきている。経営学科では、このテストを活用し、経営学科学生の経営・経済知力の向上を目指すとともに、経営学科の人材育成目標である、「企業や行政、NPO などの組織において、新産業構造の構築、新規事業の創出を推進できる、実践力のある人材の育成」に取り組む。 <b>実施内容</b> 経営学科の 3 つのゼミ（西脇ゼミ、栗島ゼミ、平野ゼミ）を中心に、6 月と 10 月に実施される日経テストの受験を一つの目標に、各ゼミで勉強会を開催する。また、学生の自主的、自律的な学習への取組みを促進するため、学生を中心とする日経テスト対策のサブゼミやスマートフォンを使用した学習等も実施する予定。

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
経営情報学部 経営学科	栗島浩二	前期月曜日 3 時限 (フレッシュマンセミナー開講時)  受講生を二組に分けて、(担当教員を 3 名×2 組) 2 度実施 (学生一人ひとりへのアテンドを高める)。	1361 情報処理演習室	<p><b>実施目的</b> 1 年生入学時において図書館の活用に関するガイダンスが通常実施されているが、レポート作成や試験、卒業論文に至るまで多くの情報データベースを活用する必要があり、十分な活用に向けて再度深く学んでおく必要がある。また、この内容は経営学科のすべての教員に共通する講義テーマであるため、共通講座として実施し、学士力向上を図る。</p> <p><b>実施内容</b> すべてのフレッシュマンセミナーの受講生を対象に、情報処理演習室において、実習形式で情報データベースの利用方法を学ぶ。講師およびアシスタントとして学術情報センタースタッフの協力を得る。経営学科教員数名による社会科学や経営学で一般的によく使う情報の検索方法などを学ぶ。</p>
生命環境学部 生命科学科	学科長：奥 尚	第 1 回：5 月 26 日 (木) 18：00～ 第 2 回以降は未定	5107 演習室	<p><b>実施目的</b> 近年は学生が多様化し、学生指導における教員の負担やストレスが問題となっている。しかし、このような問題は個人情報を含むことから、教員が一人で抱え込むケースが多く、問題解決の障害となっている。そこで、各教員が持っている情報を共有し、問題を解決するためのヒントを探ることを目的とする。</p> <p><b>実施内容</b> 各教員がこれまで経験して来た学生指導上の問題について、成功例や失敗例あるいは反省点について、個人情報に十分に配慮しながら自由に意見交換する。</p>